

2023 年度:こども園自己評価の報告書 とねやまこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・「豊中市幼保連携型認定こども園全体計画のめざす、こども像「人とつながり生きる力の基礎を培う」を目標とし年間計画や月間指導計画を幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識して計画してきた。 ・園舎の建て替え工事に伴い、教育保育内容の充実と保障、また保護者に向けての発信と共有ができるよう講師を招いてドキュメンテーションを学んだ。その中で職員自身の教育保育の振り返りや共有、子ども自身が遊びの見通しを持ち自主性を育む取り組みへとつながった。
健康支援	・保健指導年間計画に基づき、園の子どもたちの姿から保健指導の内容を担当と相談し、自分の体に関心に向け自分や友達の体や心を大切にす気持ちを持てるように努めてきた。 ・子ども達が意識し、よりよい生活習慣が身につくよう保育教諭は繰り返し言葉をかけてきた。 ・コロナ禍が終わり 4・5 歳児は歯みがき、3 歳児はうがいを始める。歯みがき、うがい、手洗いなどの衛生習慣について、自分でできることに喜びを感じ、自信を持って取り組む姿が見られた。
安全指導・危機管理	・毎月の安全点検で施設内の破損や不具合を確認し、速やかに修繕依頼や撤去を行った。 ・園庭等で体を使って遊ぶ機会が少なくなり、それがケガにつながらないように公園への散歩、リトミックやミュージック・ケア、げんキッズの取り組みなど体を使った遊びを取り入れた。 ・大きな地震がありニュース等で身近に感じた子どもも多く、真剣に避難訓練に参加する姿が見られた。園庭が使用できなかったため、DVDを鑑賞し交通安全について学んだ。
食育の推進	・自園の畑で作物を育てることができなかったので、刀根山高校の畑を借りて大根・玉ねぎ・人参の菜園活動を行った。また七草の際には生物エコクラブの生徒さんより鉢植えをいただき、季節を感じ、食材の意味なども知る機会となった。友達と一緒に食事が楽しい時間となるよう食の大切さ（自分の体を作るなど）を伝えた。
子育て支援（在園児および地域）	・大人も子どもももっと知り合い、関わりを拡げつながっていかれたらと、「みんなで知り合おう！かかわろう！つながろう！」をテーマとして、行事やクラス懇談会や個人懇談の中で、保護者と職員・保護者と子どもたち・保護者同士が共に子どもの成長を喜び合えるような顔合わせや意見交換などの取り組みを行った。 ・地域の保護者と在園児の保護者とのおしゃべり会の場を持ち、絵本セラピストを招いて絵本の読み聞かせや在園児の先輩ママからの子育てのアドバイス、自身を癒す時間を共有した。
インクルーシブ教育保育	・外国にルーツをもつ児童の入園が増えており、保護者子ども共に安心して過ごせる環境を整え、クラス運営を行ってきた。 ・箕面支援学校・児童発達支援センターより巡回指導を受けた。子ど

	も一人ひとりの育ちに沿った支援の方法を学び支援計画や指導計画の作成につなげ、共に育つことを大切に、クラス運営を行った。
職員の資質の向上	・人権研修では①マイクロアグレッションを通して発信する側が無意識に行う言動の問題性②自らが差別事象に出会った際にどのような行動を取るのか③ヤングケアラーの実態や包括的、伴走など支援の方法を学んだ。 ・次年度からの乳児保育開始に向け講師を招聘し、「乳児期の発達と保育教諭のかかわり」をテーマにアドバイスいただいた。
幼保こ小中の連携・接続	・プール遊びやドッジボール大会など、てしま・西丘・螢池こども園と交流する機会を持つことができた。 ・年長は刀根山小学校や螢池小学校へ学校見学に出かけ、学校内の雰囲気味わったり、1年生と一緒に折り紙やカレンダー作りをしたりする。楽しい時間を持つことで入学への不安を和らげることができた。
評議員会	・評議員メンバーでもある特別養護老人ホーム美豊苑との交流の機会を持つことができた。また地域の親子と交流する機会も増え、たくさんの方との出会いの中で、自分たちがしたことで嬉しそうにされる高齢者や地域の親子の姿を見て、自分が役に立つ喜びを感じる経験ができたことはよかった。「また行きたい」という声も聞かれた。写真を使って、わかりやすく子どもの様子を伝える取り組みでは高い評価をいただいた。
その他	・新園舎の棟上げでは年長組が柱に思い思いの絵を描き、工事の安全を祈願し、子どもたち自ら現場で働く方に感謝の言葉や労いの言葉をかける姿が見られた。 ・保護者会「とねっこおひさま会」より夏祭り・しゃぼん玉であそぼう・人形劇などの楽しい企画をしていただき園運営にご尽力いただいた。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育内容の発信と保護者との共有 職員の資質向上	・小学校への連携など将来を見据え、クラスの活動や遊びの中で今何を育てるのかどんな力をつけていくのかをカリキュラムに生かし、子どもの育ちを通してわかりやすく保護者に伝え共有していく。
乳児保育の受け入れと養護と教育の一体化	・家庭での経験の差や個人差の大きい乳児を迎えるにあたり、年齢に応じた対応や専門的知識や技能を深め、個々の子ども理解に努める。受容的・応答的な関わりのもとで意欲や身近な大人との信頼関係を育み人と関わる力の基礎を培う。

令和6年（2024年）3月31日

豊中市立とねやまこども園

園長名 吉岡一美